

第5回 大阪府四條畷市未来技術地域実装協議会

日時:令和5年11月27日(月)午後1時

場所:グリーンホール田原 なるなるホール



令和5年度事業進捗状況

1 自動運転等の実装に向けた取り組み

- | | |
|-----------------|-------|
| (1) スケジュールと検討内容 | P4～6 |
| (2) 自動運転車両の車種選定 | P8～11 |

2 未利用地等可能性調査

- | | |
|-------------------|--------|
| (1) スケジュールと対象地 | P13～19 |
| (2) 関連計画等の整理、事例調査 | P20～21 |
| (3) 住民アンケート | P18～19 |
| (4) ワークショップ状況 | P22 |
| (5) マーケットサウンディング | P23 |

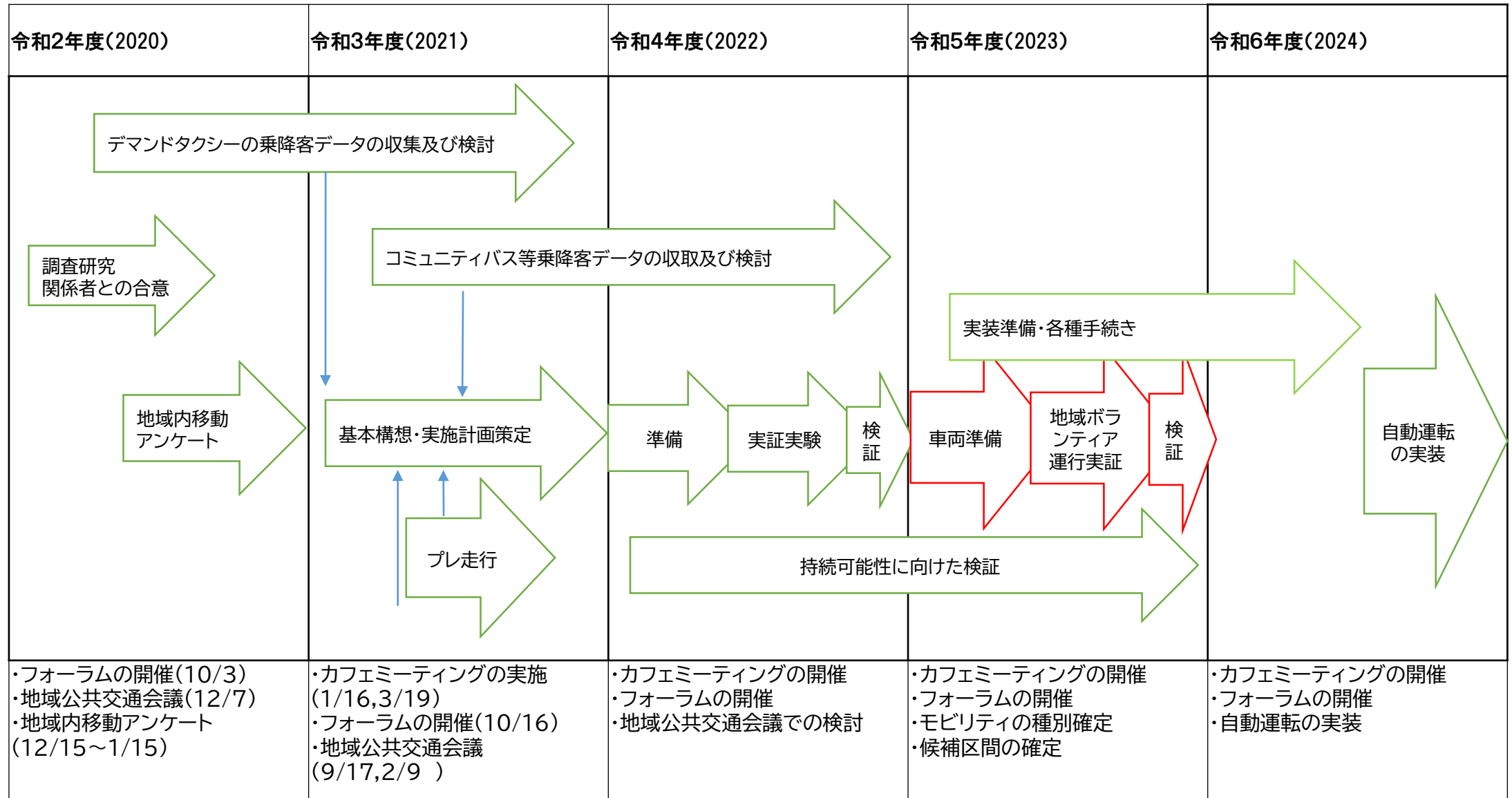
3 継続する取り組み P25



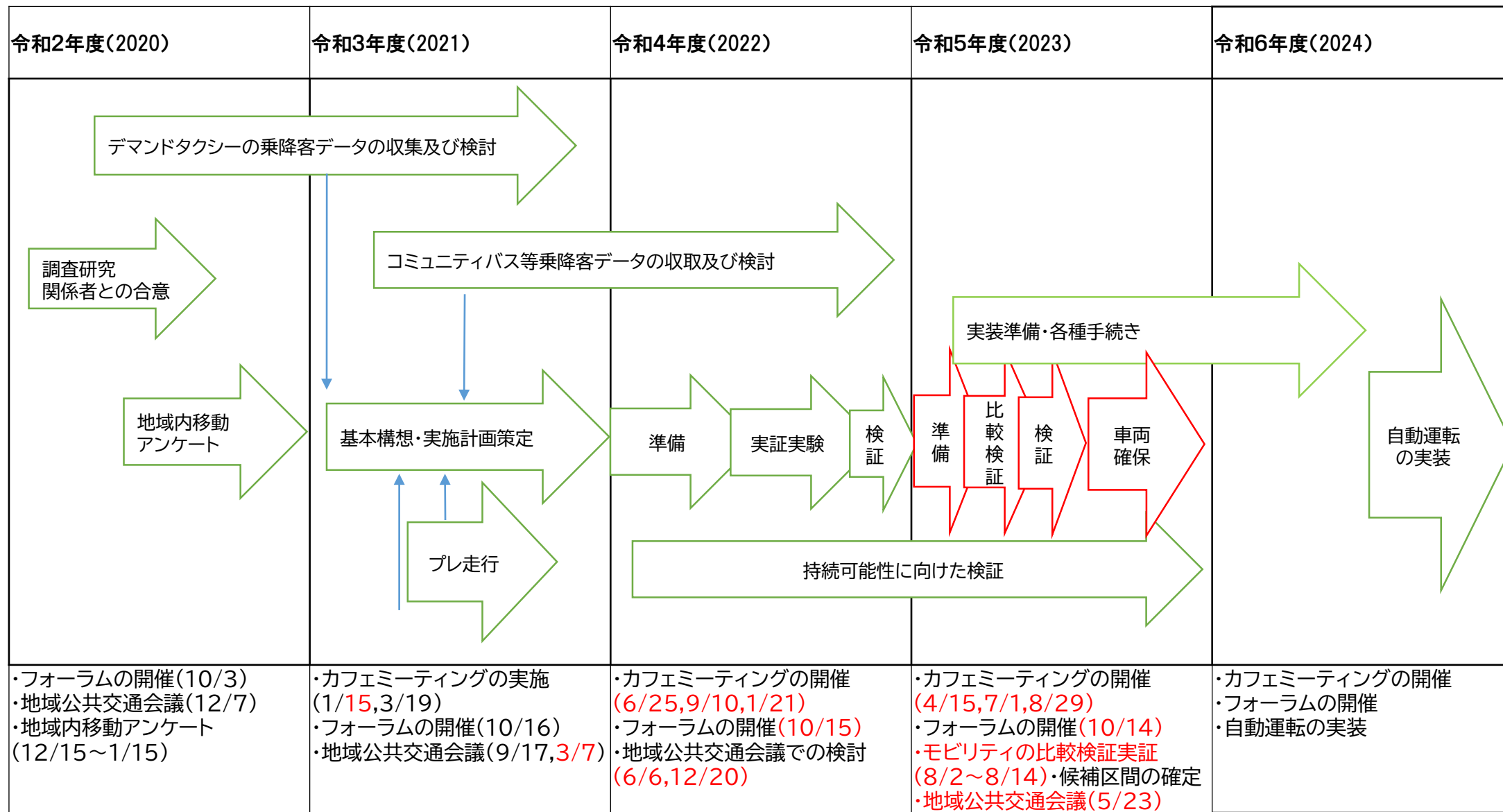
1 自動運転等の実装に向けた取り組み



スケジュール



スケジュール



地元意見に対する検討案

■自動運転車

- ・予約なしで巡回運行が望ましい→①循環本数の見直し
- ・乗車人数を増やして欲しい →②導入車両の検討

■低速電気自動車

- ・緑風台には車両が来ないので、恩恵を受けないので残念
→③緑風台ルート of 検討
- ・拠点に限らず、どこでも乗り降りできるようにして欲しい
→④降車場所の工夫

■その他

- ・暑さ・寒さ対策の検討 →⑤導入車両の検討

地元意見に対する検討案

種別	課題	方針
自動運転車	①予約有無の検討	予約なし循環運行の検討
	②車両検討	(次ページ以降参照)
低速電気自動車	③緑風台ルート of 検討	緑風台ルート運行実証
	④降車場所の工夫	関係機関と協議のうえ実施
その他	⑤車両検討	(次ページ以降参照)

R4実証実験時の車両から、乗車定員を増やしたカートタイプに加え、ドアのあるミニバスタイプの2車種を対象に、車両性能の評価を行った。将来的なルート延伸も見据え、田原管内全体で走行検証を行った。

導入車両の候補案

	R4実験車両(カートタイプ)	R5実験車両(カートタイプ)	R5実験車両(ミニバスタイプ)
外観			
乗車定員	4人	7人	8人
ステップ高	約25cm	約25cm	約45cm
登坂能力	20度(36.40%)	20度(36.40%)	5度(8.75%)
雨風対策	エンクロージャー	エンクロージャー	ヒンジドア
冷暖房	—	—	外気導入型エアコン

車両性能評価

自動運転サービスの実装に向けた車両選定のため、車両の安全性、走行性、快適性に関する実証実験(車両走行実験、モニター調査)を実施し、車両の性能を評価

■車両走行実験(8/2～8/3)

ミニバスタイプでは、走行支障箇所、登坂能力において、支障があることを確認



検証項目		検証結果	
		R5実験車両(カートタイプ)	R5実験車両(ミニバスタイプ)
安全性	走行支障箇所	支障なし ※R4年度に検証 ※緑風台地区の走行も可能	登坂部や狭小部における走行支障箇所を複数確認
	登坂能力	支障なし	乗車人数や連続運転時間等の複数の要因により登坂を登り切れずに停止する場合がある
走行性	航続距離	支障なし	支障なし
	車内の温度/湿度	ミニバスタイプの方が 1～5℃程度高い傾向 ※モニター調査時に実施	エアコンを使用していても車内の暑さ問題が解消されない(40度前後)
快適性			

▼走行支障箇所



▼モーター停止箇所



車両性能評価

自動運転サービスの実装に向けた車両選定のため、車両の安全性、走行性、快適性に関する実証実験(車両走行実験、モニター調査)を実施し、車両の性能を評価

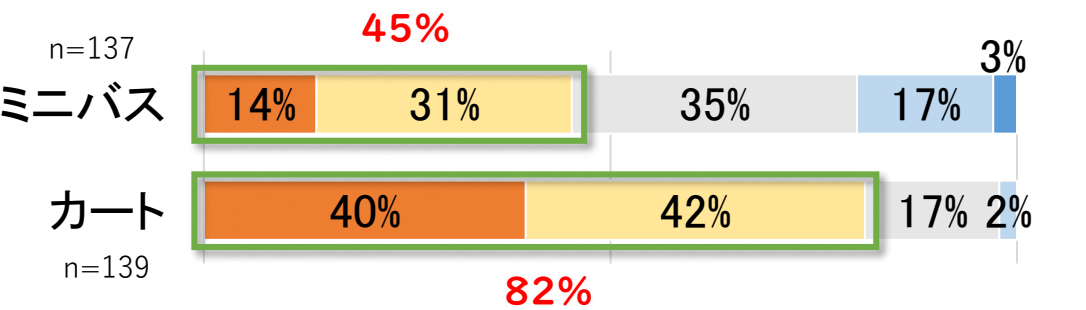
■モニター調査(8/4~8/14)

利用者、ドライバーに対して実施したアンケート調査では、いずれの項目もカートタイプが優位



検証項目		検証結果
ドライバー	・運転のしやすさ	いずれの項目もカートタイプが優位 ※サイドミラーが小さく 後方確認が、しにくい (カート)
	・車両の乗り降りのしやすさ	
利用者	・安全確認の負担	
	・車両の乗り心地	いずれの項目もカートタイプが優位 ※シートベルトがないこと が不安(カート)
	・車内の体感温度	
利用者	・車内の開放感	
	・荷物置きの利用のしやすさ	
利用者	・乗降時の負担	

▼総合的な満足度



■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満

※「未回答・無効回答」は集計対象外※8/9までの集計結果

実験結果の報告と導入車両に関する意見交換

- 第8回カフェミーティング(8/29)にて、実験結果を報告し、実験車両(ミニバスタイプ・カートタイプ)の安全性、走行性、快適性について地域住民と意見交換を実施
- ミニバスタイプは、田原管内の走行においては運用上の課題が多く、また、地域主体の運用の実現に向け、車両の乗り心地やドライバーの負担面等を踏まえ、自動運転車として実装する車両を“カートタイプ”とすることで方向性を決定



カートタイプ

▼第8回カフェミーティングでの意見交換の様子



■2023年度乗車実績

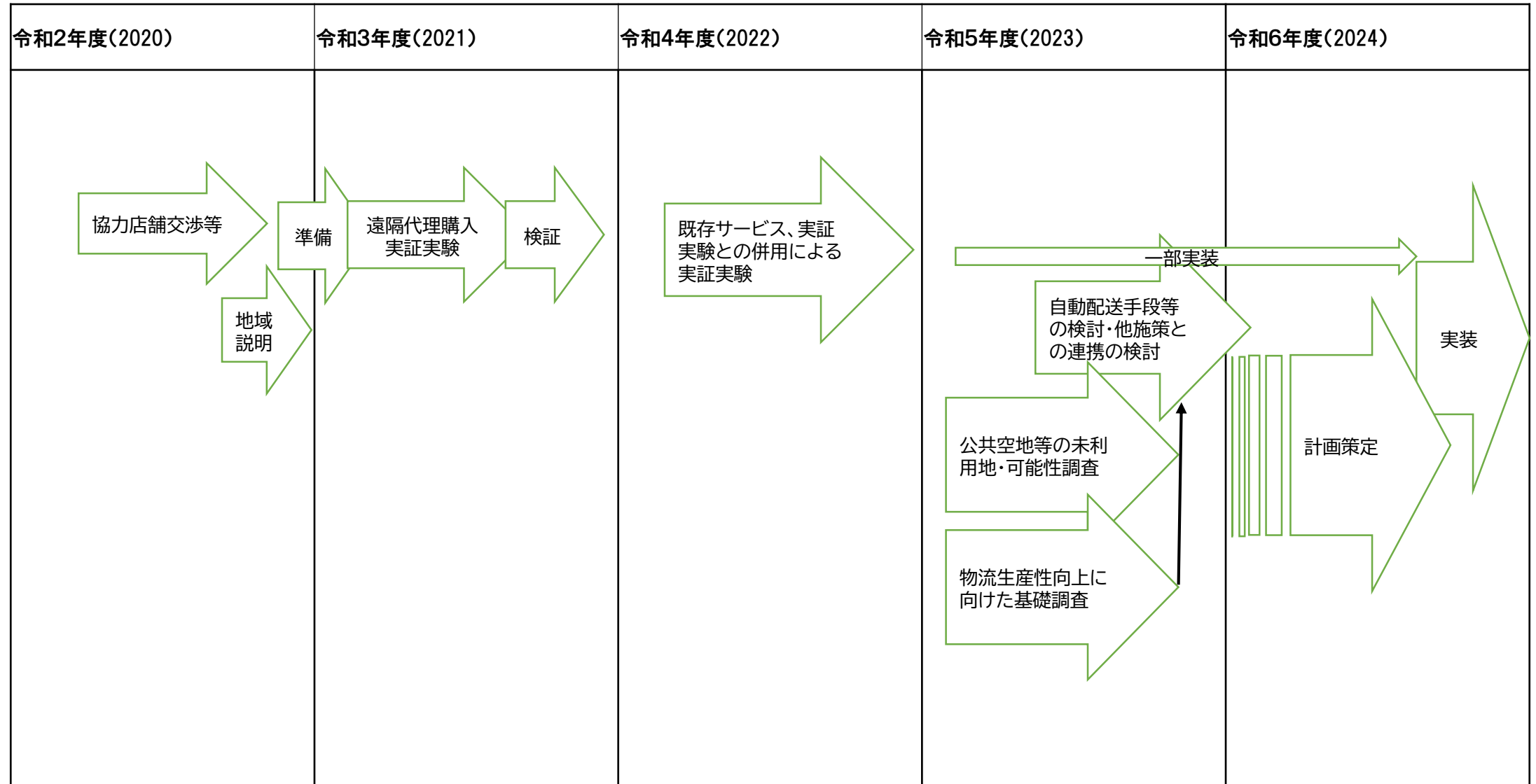
導入車両検証への乗車人数

8/2～8/3	26人	
8/4～8/14	216人	計 232人

2 未利用地等可能性調査



スケジュール



対象地① (1/3)



項目	内容
対象地住所	田原台六丁目3番1
面積	約37,000m ²
現在の状況	山林
所有者	大阪府四條畷市
地目	山林、宅地

対象地② (2/3)



項目	内容
対象地住所	田原台六丁目4番6
面積	約21,000m ²
現在の状況	緑地
所有者	大阪府四條畷市
地目	宅地

対象地③ (3/3)

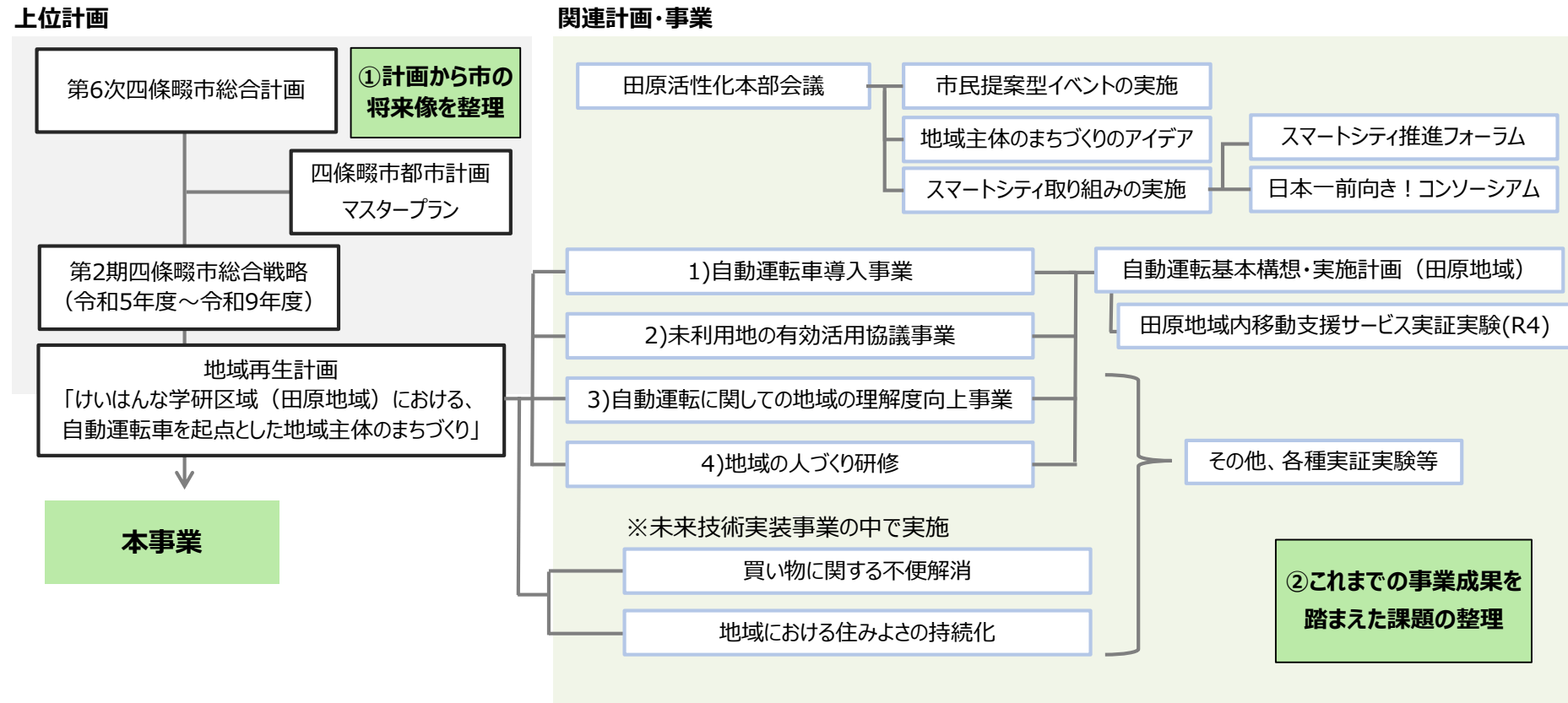


項目	内容
対象地住所	田原台五丁目1番1
面積	約3,900㎡
現在の状況	下水道事業用地
所有者	大阪府四條畷市
地目	田、宅地

対象地④ 田原地区内の地域活性化が見込まれる場所

関連計画等の整理について

- 上位計画及び関連計画における本事業の位置づけを整理し、これまでの事業成果を踏まえた課題を整理した。



- 上記の全体像をもと、整理した。

事例調査(公有地)

- 地域の課題・強み及び本事業の課題・強みを整理し、本事業で求められる機能・スキーム・成果別に事例を整理した。

①田原地区の課題

業務を通じ認識した課題（各種打合せ・関連計画より）

- 医療…高齢者のフレイル対策になる外出を促す仕組みが必要
- 賑わいづくり…田原地区に住民が集まれる場所が（交通至便地に）ない

②事業の特徴（民有地調査の整理の方向性・各種打合せより）

- 地域内の商圈が小さいため、事業性を持つには**周辺地域からの集客が必要**
- 定年後も**地域活動**に参画する意欲が高い住民が多い

③公有地の地勢・地形的な特徴

項目	対象地①	対象地②	対象地③
特徴	後背地が斜面地かつ山林であり、 造成にコストがかかる。	斜面地であり、 造成にコストがかかる。 後背地の住宅への配慮が必要。	面している道路が生活道路であり、地域住民以外の利用が難しい可能性。

機能面の抽出

- 健康増進・フレイル予防につながる通いの場の提供事例
（運動の場に限らない）
- 各世代の住民が集まり、賑わいが生まれる場所

事業面の特徴・制約

- 周辺から誘客が可能
- 地域住民の参画が見込まれる
- 中・小規模な施設

事例調査 対象機能

- A.公園・広場
- B.アスレチック
- C.農園・花壇

- 上記の観点より9事例を整理した。

事例調査(民有地)

- 地域の課題・強み及び本事業の課題・強みを整理し、本事業で求められる機能・スキーム・成果別に事例を整理した。

地域の	課題	放課後などの 子どもの居場所が少ない 、賑わいを持つ施設が少ない
	強み	定年後も 地域活動に参画する意欲が高い住民が多い
事業の	課題	地域内の商圈が小さいため、 周辺地域からの集客が必要 事業性を持たせるためには市民の協力による運営が必要
	強み	地域内の中心エリアであり、ドラッグストアでの買い物客や通勤・通学する方の利用が期待できる

①**子ども・子育て世代の居場所** を ②**市民参画により運営し** ③**周辺地域からも誘客できる** という観点で事例を整理。

- 上記の観点より10事例を整理した。

住民アンケートの実施

- 対象地の活用方法等について、住民意見を参考とするために、住民アンケートを実施した。

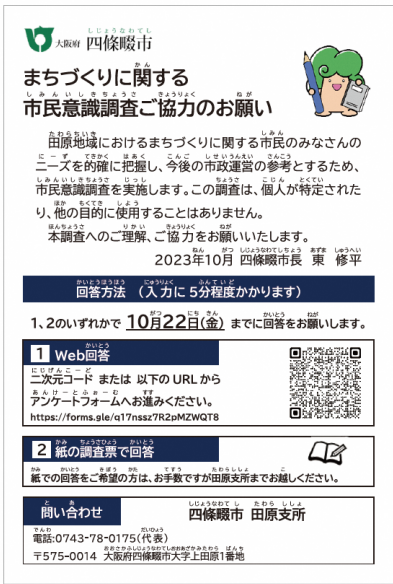
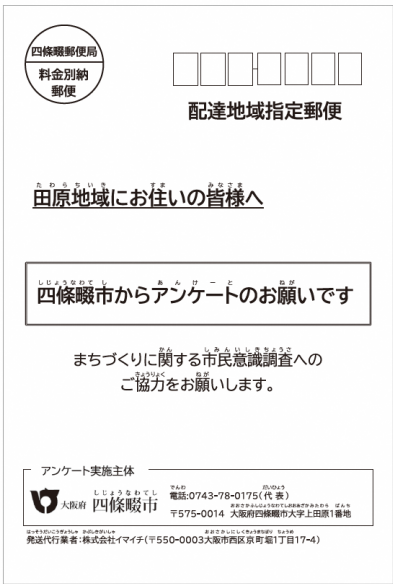
実施方式

回答方法 : Web回答 + 紙回答
回収方法 : 【Web回答】Google Forms
 【紙回答】回答用紙を庁舎に配置（紙回答希望者は来庁の上、記入する形）
配達方法 : 配達地域指定郵便

日程	イベント
9月29日（金）～10月20日（金）	アンケート回答期間
10月23日（月）第4回MTG	アンケート結果分析
11月17日（金）第5回MTG	分析結果のご報告

質問項目

- 日常生活行動、余暇行動、既存の公共施設に関する利用調査、公有地活用におけるニーズ調査、等



住民アンケート

- 余暇には、四條畷市外に外出する人が多く、商業施設やレストラン・カフェで過ごす人が多い。
- 利用度の高い公共施設は図書館・学習施設であり、公共施設への不足を感じていない人も多い。
- 公有地において最も期待されている機能は公園であり、イベントとしてはマルシェ・フードフェスタが求められている。

配布数	3,334通
回収数	691通
回収率	20.7%

余暇に関する調査（一部抜粋）

■余暇の外出先（大枠）

選択肢	回答数	%
四條畷市外	454	65.7%
田原地域外（四條畷市内）	90	13.0%
外出しない	88	12.7%
田原地域内	56	8.1%
無回答	3	0.4%

■余暇の外出先（詳細）

選択肢	回答数	%
商業施設	462	33.7%
レストラン・カフェ	277	20.2%
公園や遊び場	155	11.3%
映画館等の娯楽施設	121	8.8%
スポーツ施設	100	7.3%
無回答	90	6.6%
図書館・学習センター	79	5.8%
博物館等の文化施設	50	3.6%
コミュニティセンター・公民館	38	2.8%

公共施設に関する調査（一部抜粋）

■よく利用する公共施設

選択肢	回答数	%
図書館・学習施設	295	42.7%
文化施設・多目的ホール	96	13.9%
その他	96	13.9%
公民館・集会所	89	12.9%
スポーツ施設・体育施設	84	12.2%
子育て支援施設	15	2.2%
福祉施設	13	1.9%
無回答	3	0.4%

■現在不足していると感じる公共施設

選択肢	回答数	%
不足を感じていない	229	33.1%
スポーツ施設・体育施設	187	27.1%
文化施設・多目的ホール	81	11.7%
その他	59	8.5%
福祉施設	45	6.5%
図書館・学習施設	44	6.4%
子育て支援施設	37	5.4%
公民館・集会所	6	0.9%
無回答	3	0.4%

公有地に関する調査（一部抜粋）

■各公有地において期待する機能

選択肢	回答数	%
公園（アスレチック等含む）	145	21.0%
スポーツ施設・体育施設	132	19.1%
文化施設・多目的ホール	91	13.2%
その他	90	13.0%
芝生広場	69	10.0%
図書館・学習施設	61	8.8%
福祉施設	49	7.1%
子育て支援施設	45	6.5%
無回答	9	1.3%

■利用したいイベント

選択肢	回答数	%
マルシェ・フードフェスタ	230	33.3%
特になし	125	18.1%
フリーマーケット	102	14.8%
スポーツプログラム	91	13.2%
子供向けイベント	67	9.7%
農業体験	43	6.2%
その他	28	4.1%
無回答	5	0.7%

住民ワークショップの開催

- 以下の通りのワークショップ開催を予定している。

■目的

- 地域住民ワークショップは、“地域目線に立ったこれからの田原地域のまちづくりを進めていく”という共通認識のもと、地域住民等と対話する場を設け、協働による活用基本構想案の策定に活かしていくことを主な目的とする。

■ワークショップの進め方

- ワークショップは、活用基本構想案作成の参考とする。参加者間での田原地域の将来像のイメージ、求める機能等をすり合わせるために、具体的な「機能」のアイデア、イメージを出して共有する会とし、1回あたり、1.5時間～2時間程度の構成を想定。
- 隔月ペースで計3回開催予定。当日は4～5名ごとにグループとし、2～3グループに分かれてワーキングを行う予定。

■各回のワークショップ実施計画（案）

- ワークショップのテーマは以下を想定。年内に機能と将来像のアイデアを出し切り、第3回はワークショップの成果発表とともに活用基本構想の発表会も兼ねる構成。

テーマ

第1回（10月30日16時30分）
～田原地域における遊休地の使い方を考えよう！～

【概要】

- 田原地域の良いところや不便なところ、欲しい機能、遊休地でやってみたいこと等について意見交換を実施する。
- 初回WSでは着地点（結論）は設けず、自由・発散的な意見交換の場とする。

【進行等】

- 田原地域及び本業務対象地が含まる大判地図に、意見を直接記入もしくは付箋に記入し、貼っていくことで意見を蓄積し可視化する。
- 参加者は30名程度、5グループ程度構成できるとよい。
- 地域のキーマン（年齢高め）＋次代を担う現役世代（若年層）で偏りのない年齢構成が望ましい。

テーマ

第2回（11月30日16時30分）
～田原地域の将来像について議論しよう！～

【概要】

- 第1回WSの意見内容をもとに、将来の田原地域の在り方について意見交換を実施する。
- グループごとに意見を取りまとめ、将来像を作成するところまでを達成目標とする。

【進行等】

- 第2回WSで作成した将来像を踏まえ、事務局は将来ビジョン（案）に落とし込む。これにより、住民目線で考える田原地域の将来像を活用基本構想に落とし込めるようWS成果を活用する。
- WSを通して意欲のあるキーマンを発見した場合は、そのキーマンを地域に巻き込みながらまちづくりの機運を高めていく。

テーマ

第3回（12月15日15時00分）
～これからの田原地域のまちづくりをみんなで企画しよう！～

【概要】

- 第1回～2回までのWSの成果発表として、活用基本構想（案）を示し、地域住民との共有を図る。
- これまでにみんなで考えたアイデアを共有して、田原地域のまちづくりを実際に企画してみる。

【進行等】

- 次年度に向けたまちづくり事業への契機となるよう、キーマンを巻き込みながら次年度以降の本事業に関連するまちづくり事業に参画いただくことも期待する。

マーケットサウンディングの実施

- 以下の通りのマーケットサウンディングを予定している。

目的

- 未利用地の活用方策について、民間事業者の意見・関心を獲得すること
- 民間事業者による本事業参画への条件を確認すること

方法

- アンケート：対象企業にアンケート及び本事業の概要を送付し、回答後メール添付で回収。
- ヒアリング：アンケートにて抽出したヒアリングに積極的な企業に対して、webexを活用したヒアリング調査
- 本事業の概要を事前に事業者へ送付の上、日程調整を行い、WEB面談の上でヒアリング調査を実施

調査対象

- アンケートにて積極的回答のあった企業を中心に、ヒアリング実施を想定。

調査対象先（アンケート送付先）

- デベロッパー系企業
- アウトドア系（アスレチック運営事業者等）企業
- 農業関連企業
- 「日本一前向き！」コンソーシアム参画団体
- 子育て関連企業

等を中心に30社程度を予定

スケジュール（予定）

時期	イベント
11月 5 週（11月 1 週）	事業者へアンケート送付
12月 2 週～3週	ヒアリングアポ取り
12月 3 週～ 4 週	ヒアリング調査の実施
1月 2 週～ 3 週	ヒアリング結果のまとめ

※マーケットサウンディング
民間事業者との直接対話による市場調査・情報収集

3 継続する取り組み



都市OS スケジュール

令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)
フォーラムの開催 スマートシティガイドブック 分科会等への参画	コンソーシアム内におけるデータ 連携等の議論 他団体連携の模索	・都市OSの必要性の検討 コンソーシアム、地域コミュニ ティ、地域企業等によるSand boxの利活用議論の推進	・都市OSの他団運用状況確認 コンソーシアム、地域コミュニ ティ、地域企業等によるSand boxの利活用議論の推進 ・【総務省】 地域課題解決に向けてスマートシ ティの推進に関する意見交換	・都市OSの構築検討 ・コンソーシアム、地域コミュニ ティ、地域企業等によるSand boxの利活用の実証の促進

その他 地域の声を反映した施策

- 1 カフェミーティング
- 2 スマートシティ推進フォーラム
- 3 子ども体験教室
- 4 スマートフォン使い方教室
- 5 畠センサー、桜の開花予想